

米軍複数基地未検査で入国

出国時のPCR 沖縄知事「言語道断」

政府は二十三日、米海兵隊キャンプ・ハンセン（沖縄県金武町など）の新型コロナウイルスのクラスター（感染者集団）問題に関し、同基地を含む在日米軍が米国を出国する際、PCR検査を実施していなかったと明らかにした。

米兵らは日米合同委員会の合意に基づき米軍施設内に入国する場合は米側が検査手続きをする。集団感染が起きた同基地の部隊はワクチン接種済みであることを前提に、出国時と日本到着直後の検査を省き、入国

後五日目に実施していた。

政府は米国出国時にPCR検査を実施していない在日米軍基地がキャンプ・ハンセン以外にもあることを確認した。米軍基地の入国時の検査状況に関する調査結果を早ければ二十四日も公表する方向で調整中だ。複数の政府関係者が明らかにした。沖縄県の玉城デニー知事は米側の対応を「言語道断だ」と批判した。

在日米軍司令部は二十三日、共同通信の取材に対して、今年九月の米疾病対策センター（CDC）などの

手引に従い、軍用機で米軍施設に到着する米兵らに対し、ワクチン接種済みであれば到着前の検査義務を解除していたと明らかにした。今回のキャンプ・ハンセンの事案を受け、現在は到着前七十二時間以内の検査を義務付けたと説明した。

自民党外交部会は同日の会合で、在日米軍基地で働く日本人従業員の健康を守るため、米軍に対して感染防止策の徹底を要請するよう政府に求めた。松野博一官房長官は会見で「日本の

措置と整合的とは言えないことが明らかになった」と指摘し、米側に改善を要求したと重ねて主張した。キャンプ・ハンセンでの感染者へのオミクロン株検査については「実施に向けて最終調整中だ」とした。